

授業科目 日常生活活動学

当教員名]	対象学年	3	対象学科	理学
小林量作 小野宏一 五十嵐進 安達千佳子 佐藤也登志	開講時期	前期	必修・選択	必修
	単位数	2	時間数	60

【<概要>又は<一般目標 : G・I O>】

1. 日常生活活動 (ADL) の概念、その範囲、各種の評価方法について知識を整理し、問題点の抽出ができるようになる。
2. 問題点に対する目標設定、プログラム立案までできる。
3. 基本的なADLの理解した上で、代表的な疾患・障害のADLについて研鑽する。
4. 学生自身で選択した主題について調査し、そのプレゼンテーションを行う。

【<行動目標 : S B O>】

1. 概念について理解する。
2. 評価について理解し、各種評価方法の特徴について理解する。
3. 起居動作・移動動作・身の回り動作指導について理解する。
4. 福祉用具についての理解する。
5. 問題点を抽出し、プログラムを立案できる。
6. 各種疾患のADLについて理解する。

回数	授業計画又は学習の主題	SBO		
		番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員	
1~2	概念、範囲、意義	pp1-14	1	講義 小林
3~4	評価	pp15-52	2	講義 小林
5~6	評価	pp15-53	2	講義 小林
7~8	起居動作 (学生発表)		3	講義・演習 小林
9~10	起居動作 (学生発表)		3	講義・演習 小林
11~12	身の回り動作 (学生発表)		3	講義・演習 小林
13~14	身の回り動作 (学生発表)		3	講義・演習 小林
15~16	移乗動作 (学生発表)		3	講義・演習 小林
17~18	ADLプログラムの立案と指導		5	講義 小林
19~20	片麻痺のADL		4 5 6	講義・実習 安達
21~22	脊髄損傷とADL		4 5 6	講義・実習 五十嵐
23~24	脊髄損傷とADL		4 5 6	講義・実習 五十嵐
25~26	慢性関節リウマチとADL		4 5 6	講義・実習 小野
27~28	慢性関節リウマチとADL		4 5 6	講義・実習 小野
29~30	骨関節疾患とADL		5 5 6	講義・演習 佐藤

【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>
教科書	日常生活活動 (動作) - 評価と訓練の実際 -	土田弘吉・他編	医歯薬出版	1992年
参考書	新版姿勢と動作 - ADLその基礎から応用 - 日常生活活動 (ADL)	斎藤 宏・他編 橋本 隆・他編	メヂカルフレンド社 神隆文庫	2000年 1998年
その他の資料				

評価方法]	出席、発表、レポート、期末試験、その他	【履修上の留意点】 教科書の予習を必ず行うこと。
-------	---------------------	-----------------------------